

【内浦学区・内海学区】(仮称) 千年小中一貫教育校(義務教育学校)に係る地域説明会 概要

*分かりやすくするため、一部補足を加えています。

【日時】2019年(令和元年)5月10日(金) 19:00~21:15

【場所】内海小学校 体育館

【出席】参加者 58人(傍聴3人を含む。)

行政 15人(教育長, 教育次長, 管理部長, 学校教育部長 他)

【内容】1 開会

2 あいさつ(教育長, 内海町教育環境整備推進協議会会長)

3 説明

・学校再編の目的と必要性について

・(仮称)千年小中一貫教育校の概要(教育内容, 施設整備)について

4 意見交換

5 閉会

あいさつ

(教育長)

- ・2015年(平成27年)8月に学校再編計画を公表して以後、本日が初めての地域説明会になる。4年近くの間、保護者や地域役員を中心に、何度も説明会や意見交換の場を持たせていただいた。説明会等に参加し、意見を聞かせてくださったことを感謝している。自分の子どもが通う学校、内海町の学校はどうなるのかという心配をされながら、過ごしてこられたと思う。長い時間このような状態が続いていることを申し訳なく思う。
- ・2019年(平成31年)2月に、内海町教育環境整備推進協議会から、内海に教育環境を残してほしいという要望をいただいた。学校を再編すると、内海町から学校がなくなってしまうという皆さんの思いは、重く受け止めている。しかし少子化が進み、社会がものすごいスピードで激しく変化している今日、子どもたちに求められる力を、学校生活、日々の授業においてしっかりと育てていくため、学校再編は避けては通れないと考えている。十分に説明できていないことや様々な課題もあるが、皆さんに御理解いただき、教育委員会が責任を持って、子どもたちにとってより良い学びの環境を作っていきたいと考えている。

(内海町教育環境整備推進協議会 会長)

- ・学校統廃合について、今まで協議会を中心に色々と協議をしてきた。市の再編計画が出る前の2014年(平成26年)に、内海町の状況を勘案し、内海町に教育環境を残してもらいたいという第1回目の要望書を出した。市の再編計画が出た後も協議をしていたが、今年2月に第2回目の要望書を教育長と市長宛に出し、4月に回答があった。
- ・日本全体で少子高齢化が進んでいるが、内海町にとって教育環境は必要であり、学校はどのような形にしても残してもらいたい。内海町に学校がなくなり、教育環境がなくなることにより、若い人が町外に出ていき、外から内海町に入ってこなくなることが予想される。そうなれば、内海町の過疎化がますます進むため、教育環境をぜひとも残してほしい。
- ・最初の要望は、内海町にある保育所、小学校2校と中学校を一緒にした保小中一貫教育校を作ってもらいたいというものだったが、市の方針とつながらなかった。このような説明会は今回が初めてなので、義務教育学校に関する話をしっかり聞き、疑問点や内海町の思いを皆さんから話してもらえれば、その思いを受け、教育委員会にも検討してもらえると期待している。しっかりと意見を出してもらいたい。

学校再編に関すること

○ 住民への説明が十分されないまま、計画を進めていくのか。

→（回答）

地域役員と進め方を相談し、「学校のことだから、まずは保護者としっかり話合いをしてほしい」ということを受けて、これまでは、保護者の方と話合いを重ねてきた。地域の方に、このような説明の場を早く持たせていただきたいと思っていた。今日の説明内容について御意見や御質問を出していただき、教育委員会の考えを説明する。しっかりと意見交換をさせていただきたい。

○ 内海町の学校を1校でも残してほしい。新しい学校を1校作ってほしい。

○ 内海の子どもたちの実態をしっかりと見ているのか。内海から学校をなくすという選択肢しかないのか、第三者を交え、もう一度話をしてほしい。

○ 無理な統廃合をしないようにという国の方針が出ているにも関わらず、市が進めようとしていることに反発がある。

○ 小中一貫校に行かせたいという気持ちが全く湧かない。小規模の学校が良くて移住している人もいる地域なのに、学校をなくしてしまうのか。

○ 義務教育学校の計画は、統廃合が目的になっているのではないか。

→（回答）

教育環境に対する考え方、子どもたちが置かれている現状やこれから子どもたちが生きる世界・社会への認識が大きく違うと思う。学校は、子どもたちのためにあり、子どもたちに変化の激しい社会をたくましく生きていく力を付けるためにある。「今の状況で何も問題はないし、穏やかでいい」「安心して丁寧に指導が受けられるから良い」ということはよく分かる。しかし、5年先どころか1年先もどうなるか分からない社会が押し寄せてきている。多様な人がいて、多様な意見があふれる中で、自分で主体的に考えていく力、他者と協働してより良い考えや価値を見出す力を身に付けていかなければならない。

学習したことを覚えて答えが出せる力だけではなく、しっかり自分で考える、お互いの考えを聞ける、尊重したり折り合ったりしあえる子どもを育てなければいけない。今までのように、決められたとおりに行える子どもを育てる教育、指示されたとおりに書いたり覚えたりする学びを、自分で考え、疑問に思っただけで答えを探したり、新たな課題を見つけて解決策や新たな価値を見出していく力を育てる学びに変えなくてはならない。国や県、市、全てがその方向で進んでいる。内海町での教育を否定している訳ではない。学校に何度も足を運び、授業を見ているが、内海小、内浦小、内海中学校でもそのような学びを作ろうと一生懸命取り組んでいる。しかし、子どもたちがこれから生きる未来を見据え、「今の状況がいいからそれでいいのか」と問いたい。学校教育で、これからの子どもたちに求められる力を付けていく必要があり、それは、内海だけではなく、福山市や全国の学校が突きつけられている課題である。

企業の経営者が一番困っていることは、従業員が自分で考え決められないことだと言われていた。誰かがやってくれるのを待つのではなく、何とかしよう、一緒になってしよう

という力が今の社会で求められている。日々の問題をどのように捉え、課題を解決していくかを考えていく力が必要である。

現在、開校に向けて取り組んでいる再編校でも、地域や保護者の方は、始めは「今のままがいい」と言われていた。しかし、今は、「子どもが事前交流を喜んでおり、もっと一緒にいたい、次も早く行きたいと言っている」という声を保護者からたくさん聞き、両校の子どもたちが一緒に学ぶ時間や回数を増やしているところである。

子どもの力は本当にすごい。何かあったらいけないと親が躊躇するのではなく、これから生きていく社会が、変化が激しく、不透明だからこそ、子どもが頑張ろうとすることを後押しする必要がある。新しい環境に行くことで、今まで気付かなかったことや、知らなかった嬉しいことにたくさん出会える。いずれ社会に出ていくために、時には間違ったり傷ついたりすることもあるかもしれないが、教育委員会と学校が、時には手を出さずに見守り、しっかり関わりながら育てていく。

○ 一緒になって良いこともあるだろうが、7つの学校を1つの学校にするような再編計画が、他の市町にあるのか。

→ (回答)

全国的に少子化が進んでおり、この10年、20年で、他市町でも、学校再編はかなり進んでいる。一度再編したが、また規模が確保できなくなり、再度の再編を進める必要が生じている状況もある。

5つの小学校と2つの中学校の再編は、学校数は多いが、(仮称)千年小中一貫教育校は、児童生徒数約670人と望ましい規模の学校になる。通学も、バスの乗降時間を含め20分から25分程度で通える距離にあり、困難な再編ではない。

内海町内の小中学校の今年度の児童生徒数は、3校合わせて78人であり、去年よりも減っている。15年前と比べると半分程度になっている。時間を置けば置くほど、どんどん子どもが少なくなっている状況で、これ以上放っておくことは教育行政として無責任ではないかと考えている。

○ 住民が合意できるよう、説明会を続けてほしい。

○ 地域と市教委の意識や認識の差を感じた。これからも意見交換を続けてほしい。

→ (回答)

個別にでももっと話を聞かせてもらいたいし、教育委員会の思いをもっと聞いてもらいたいという気持ちを強くした。保護者の皆さんも色々な思いがあるだろうし、我々の説明が十分でないこともあると思う。どのような形でこれから進めていくのかは、再度調整させていただく。もっと話をさせてもらう必要があると感じた。

地域に関すること

○ 地域との合同運動会には、地域の方も喜んで出席されている。また、登下校の見守りボランティア等、子どもたちのために活動していただいている。そうした地域の方の思いは、どのように考えているのか。

→ (回答)

内海小、内浦小、内海中学校、どの学校も素晴らしい学校だと思っている。学校行事や学校と地域とのつながりの中で地域の皆さんが子どもたちから元気をもらい、皆さんに支え

られて学校が運営できていること、内海町にとって3つの学校がどれだけ大事なもののなのかもよく分かっている。

教育や社会がどんどん変わってきている中で、子どもたちに必要な力をしっかりと付けていく環境をつくるのが教育委員会の責任であり、その力を付けていくことのできる教育環境として義務教育学校の計画を作った。良い学校を作っていくので、御理解いただき、新しい学校に御協力いただきたい。

○ コンパクトシティの考え方は。全て千年に集約するのか。

→ (回答)

これからの人口減少社会で、公共施設等を今までのように市内万遍なく維持していくことは難しく、サービスを提供する施設が減っていく可能性がある。持続可能性を考え、どの場所へ公共施設も含めた各種施設を集約していくかということがコンパクトシティの考え方である。学校をどこに設置するかについては、子どもの将来推計等をふまえて考えると、千年中学校の場所が一番適当である。

人口減少に伴い税収も少なくなり、予算確保が厳しくなっていく中、教育にかける予算を効果的に投入していく必要がある。また、教員確保も難しくなり、教育の質を維持するためにも、学校再編は必要である。

○ 子どもたちは、地域、家庭、学校の3者が1つになってこそ成長できる。内海では、地域が学校と十分に関わりを持ち、子どもを見守り、連携も取れている。

○ 地域にとって学校は大事。人数が多ければ良いという考え方はやめてほしい。

→ (回答)

地域の皆さんの支えがあったから学校がここまで頑張って来られた。合同運動会や体験活動など様々なことを地域の支援を受けながら行っている。

少人数で目が行き届き、手を差し伸べやすい環境で成長していくのか、ある程度一定規模の人数の中で子どもたち同士が関わり合い、揉まれたり、達成感を味わったりしながら成長していくのか、どちらが子どもたちにとって望ましい教育環境なのかを教育委員会として考えた時、子どもたちを一定規模の人数の中で育てていく必要があると判断し、取り組んでいる。

子どもたちの成長や未来を考え、義務教育学校を整備し、子どもたちが学ぶことが楽しいと思う学校づくりを行っていく。

○ 義務教育学校を作りたいという意気込みは感じたが、内海町の実情や歴史、地域住民の思いにもっと配慮してもらいたい。

→ (回答)

内海小、内浦小、内海中学校には何度も訪問しているので、どのような教育活動をしているかは理解している。子どもたち同士の関わり合いや学びが、少人数であっても丁寧に行われているのを見ている。少人数の学校を否定するような思いは全くないし、学校を支えていただいている皆さんには感謝している。

子ども同士が関わり合う中で、気付くことは本当に多い。子どもたちのこれからの考えた時に、今のままではいけないという思いでいる。

教育環境を残して欲しいという要望に対して、学校を残すことは難しいが、内海町を福

山市内の子どもたちの海の学習をする学びの拠点にさせてもらえないかという考えをお伝えした。年間を通じ、子どもたちが宿泊を含め内海に学びに来て、体験活動を行う。その活動への御支援、御指導をお願いしたい。

教育に関すること

○ 小・中学校は基礎教育を学ぶ場だと思う。

→ (回答)

基礎的なことを覚えたり、繰り返したりすることで身に付く知識や技能も大事で、これまでの社会では、そういう力が求められ、これまでの教育方法で力を付けてきた。

社会の変化は激しく、これまで当たり前にあった職業や仕事内容が既に変わっている。AI（人工知能）は、人に代わって仕事を担い、人の仕事を奪っている現実がある。これからの子どもたちは、与えられたことを行う、覚えたことを繰り返すだけではなく、仕事をする上で何が必要なのか、その先にあるものは何かを考え、自分で提案する力が必要になっている。その力を教室の中の学びで作っていききたい。そのために、全ての学校で「福山100NEN教育*」を進めており、新しい義務教育学校でも、そのような力を付けていききたい。基礎的な力を付けることは必要だが、そこで止まるのではなく、そこから何を作っていけるかを考え、自分たちの未来をしっかり作っていく力を付けることを目指している。これからの時代を生きていく子どもたちに、本当の意味での力を付けていくことのできる教育活動を、義務教育学校で展開していく。

*福山100NEN教育

知識・技能はもとより、課題発見・解決力、挑戦する力、粘り強さや忍耐力、コミュニケーション能力、思いやり・やさしさ・助け合いの心（ローズマインド）などの資質・能力を、「21世紀型“スキル&倫理観”」として、日々の授業を中心とした全ての教育活動の中で育み、日常の様々な場面で行動化できる確かな学びにしていくこと。

○ 子どもの人数が少ないとだめなのか。子どもは先生によって伸びるので、先生との関わりが一番大事だと思っている。

○ 小規模の学校に行って身に付いたこともたくさんある。

【教育長結び】

少人数の学校や内海町の学校の教育を否定している訳ではない。少人数を活かした教育や少人数だからこそできることを工夫し、行っており、子どもたちは伸び伸びと育っている。しかし、子どもたちに求められる力を付けるために、教育の内容や方法が変わっている中で、再編により一定の集団規模を確保していくことは、もう先送りできないと考えている。

先生と子どもとの関わり合いは大事であり、先生がどんなアプローチをするかによって、子どもの感情が揺れ動き、自分に自信をもったり、何とか頑張ってみようという気持ちになったりすることはたくさんある。

一方、子どもたち同士の関わりの中で子どもが気付くことは本当に大きい。多様な人間関係の中で揉まれ、多様な意見に触れながら、時にはつらいこともあるかもしれないが、そこで自分自身を変えていこうとしたり、先生の支えにより次の段階に進んでいこうとし

たりというように、色んな体験ができる。一定規模の人数の方が、自分の力を引き出したり伸ばしたりするための様々な可能性が出てくる。学校行事も、盛り上がりや達成感を味わえ、明日からも頑張ろうという気持ちになり、子どもの成長につながっていく。今の少人数の学校の状況がずっと続き、今後さらに子どもの数が少なくなっていく中で、子どもたちのために必要な教育環境はどのようなかということも、我々大人が真剣に考えるかが問われている。